

日本人専門家が指導した圧縮空気システムの効率的運用手法の採用で、 インド企業が約30%の省エネ達成

概要

2017年に、マハラシュトラ州プネ市に所在する自動車部品製造企業において技術適用可能性調査 (FS) を実施。古い空気圧縮機の高効率インバータ機を入れ換え、エアー漏れ対策等、運用手法の改善案を提示した。

2024年にフォローアップ調査を行い、老朽化していたレシプロ圧縮機 (220kW) の廃棄、エアー漏れ対策実施、高効率ツールへの取換えなど、日本人専門家が推奨していた運用手法がほとんど実施されていることを確認した。

こうした運用手法改善策の結果、年約179万kWh (約1,610万ルピー (約2,820万円) 相当) *の電力消費量が削減された。* 1ルピー=1.75円で換算

関連記事

https://jprsi.go.jp/ja/activity-report/r7_seminar_06

https://jprsi.go.jp/ja/activity-report/r7_seminar_07

写真

技術適用可能性
調査時



フォローアップ
調査時

